

厚生労働大臣最優秀賞

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：親＆子どものサポートを考える会

取組タイトル：精神に障がいのある親と暮らす子どもを支える取り組み

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	○ 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」		重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」		

プロジェクトウェブサイトURL：http://www.oyakono-support.com

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

精神に障害のある親と暮らす子どもは、親の病気の説明を受けていないことが多く、何が起きているのかわからない状況の中で、誰にも相談することができずに困難を抱えていることが多くあります。また、障害のある親も障害に対する社会の偏見や、養育できない親と思われるのではないかと不安から支援を求めない傾向があり、こうした環境下で育つ子どもが健全に育つためには、親子が支援を求めやすい環境作りが必要となります。

親＆子どものサポートを考える会では、研究として実施した子どもへのインタビューの結果を基に、支援へと発展させています。

社会から孤立しがちで自ら支援を求めることが少ない親・子が、「こんなことで困っている、助けて欲しい」と言えるためには、日頃から親・子に関心を寄せ見守る人の存在が必要だと考え、身近に存在する学校の教員・民生(児童)委員・行政や保健機関のスタッフなどを対象に、そういった親子への理解を図る「支援者研修」を実施しています。

また、こうした親支援・子ども支援に取り組む機関は全国的にも少なく、制度的な支援対象に該当しない“精神に障害のある親の子ども”の支援は、各々が試行錯誤しながら実施しているという現状があります。そのため、親支援・子ども支援を実施している機関が集まり、他機関の実践から学び、何ができるかを考える「学習会」の開催も行っています。

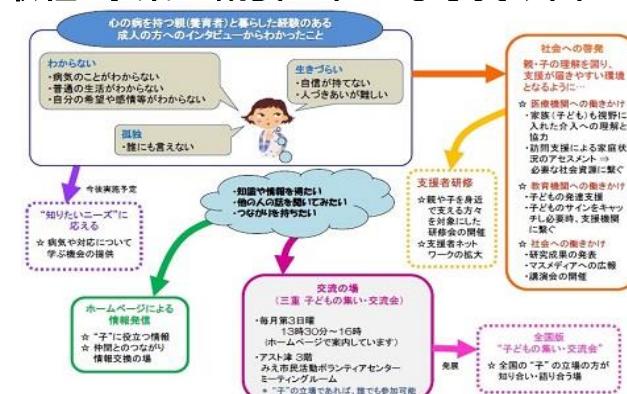
さらに、話を聞いて欲しくても親から期待した反応が返らないなど、これらの子どもは、親から認められた感覚を持ちにくく、自分の感覚はズレていないかと不安に感じたり、自分に自信を持っていないなど生きづらさを抱えることが多くあります。これらの子どもが同じ境遇の仲間と知り合い、思いを語り合う場として「子どもの集い・交流会」を毎月実施しています。こうした語りの場は全国的にも少ないため、年1回交通の便の良い地で「全国版 子どもの集い」を開催し、子どもが安心して知り合い、繋がることのできる場を提供しています。

【成果】

平成28年度について、「支援者研修」には毎回、定員を超える申し込みがあり、参加者は計106名でした。参加者からは「子どもの支援の手立てとして参考になった」「親のできない理由がわかった」との声が寄せられ良好な反応を得ているとともに、この研修が支援者のサポート、他機関連携の場にもなっています。また、支援機関の「学習会」は、全国各地から39名が参加、こちらも支援者間のネットワークづくりの貴重な機会とすることができました。「子どもの集い・交流会」には計95名が参加し、その場で得られる、同じ境遇の仲間を支えられる体験は、「自分らしさを大事にしたいんだ」と自分を認めることや自己の気づきにも繋がっているということが分かりました。

本会の特徴である、子どもの声(ニーズ)を聞きながら、それに基づいた実践を行っているという点が、一方的な支援ではなく、対等な関係性を保ちながらの支援を実現しており、また、こうした取り組みを実践している機関が少ないため、それらを繋ぐネットワーク作りの中心にもなっています。これまで着目されてこなかった“精神に障がいのある親と暮らす子ども”への支援として、2013年には第9回精神障害者自立支援活動賞(リリー賞)―支援者部門―を受賞するなど、評価を受けています。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



↑親＆子どものサポートを考える会 のリーフレット(内面)



↑「支援者研修」の様子



↑支援機関の学習会」の様子

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：株式会社 Kids Public

取組タイトル：スマホで小児科医に相談「小児科オンライン」事業

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	○	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
		重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL： <https://syounika.jp/>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

昨今、少子化が進んでいるにも関わらず、小児科の受診者数は増加傾向にあります。決して重症患者が増えているわけではありません。軽症にも関わらず自宅では判断できず、受診に至る患者が増えているのです。

これは、インターネット上での情報の氾濫などによって、保護者の不安が増幅し、自宅において病院を受診すべきかの適切な判断をしづらくなっているためではないかと考えています。Kids Publicは、この点に課題意識を持ち、「小児科オンライン」事業を開始しました。

軽症で不安を抱き病院を受診する母親がいる一方で、不安を抱えたまま子育てを続けている母親もいます。大きな不安を母親が一人で抱え込むことは、最悪の場合、子どもへ手をあげてしまうことにも繋がります。こうした子育ての状況に対して、病院で待っているだけではなく、スマートフォンという母親にとって身近な接点を活用することは、子育ての孤立を防ぎ、母子の健康に寄与できるのではないかと考えています。

小児科オンラインでは、0歳から15歳の子どもを育てている方を対象にサービスを提供しており、利用者の方は、スマートフォンを使い、家にいながら子どもの健康や子育てに関する疑問・不安を小児科医に相談することができます。「夕方から急に熱が上がってしまったが救急外来を受診すべきか。」「腕の湿疹が続いてずっと治らないが、皮膚科に行くべきか。」「同じ月齢の子は単語を喋り始めているのに、うちの子はまだ喋らない。発達が遅いのか。」など様々な相談に対応しています。

実際に病院に行き診察を待つのは負担も大きいですが、小児科オンラインは家にいながら利用できるため、気軽に相談を行い、不安を軽減できます。また、LINEやSkypeで、子どもの動画や写真画像を小児科医が確認できるため、品質の高いアドバイスを受けられます。

【成果】

具体的な成果として、本事業を導入している健康保険組合の例をご紹介します。この健康保険組合では、3ヶ月間で60名の方が小児科オンラインを利用しましたが、その中で相談後に結局不安が増し、夜間外来を受診した方は0名でした。このことから、サービスの利用を通じて、疑問・不安の解消ができていたことが示唆されました。そして軽症受診の減少は医療費の適正化にも繋がります。実際の利用者の方からは「インターネットを見るとかえって不安が煽られることもあるのですが、お医者さんにアドバイスをもらえるので、落ち着いて様子を見ることができ、焦って救急に行く事がなくなりました。」といった声をいただきました。

今後も健康保険組合、企業、自治体などと提携しながら積極的にサービスを展開し「子育てにおいて孤立しない社会づくり」を行なっていきます。また、多く寄せられる相談内容については、小児科医が記事としてまとめ、情報発信を行うことで、単に相談に対処するだけでなく、ユーザ側からの相談を、次の子育て世代への知見として活かしていく取組としていきます。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲LINEやSkypeのビデオ通話で、小児科医に子どもの様子を見てもらいながら相談できます



▲LINEのメッセージチャットで画像を送り、相談することも可能です

厚生労働大臣賞 団体部門 優秀賞

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称： 特定非営利活動法人 ウイズアイ

取組タイトル：「24時間受け入れ・緊急一時預かり保育」の低価格での実施

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○ 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	○ 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	○ 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL： <http://with-ai.net/itjihoiku.html>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

東京都清瀬市近隣地域には、平日・土・日・祝・夜間に緊急かつ低料金で子どもを預かるサービスを提供している場所が少なく、特に3歳未満の年子や多胎児・障害児を育てている家庭は、外出もままならず、外との接触が少なくなってしまう。外遊びや小集団を経験させたくても日常的に親の疲労感が目立ち、親子共にストレスが大きくなります。このような親の育児不安や育児負担が解決されないまま蓄積されることは、不適切な養育にもつながり得る課題です。

ウイズアイでは、虐待ハイリスク層である若年出産・高齢出産・単身親や、多胎児・年子・発達障害のある子を育てている親、24時間無休・無給の子育て家庭に対して、親の育児負担を軽減し、疲労感を取り除き、笑顔で子どもと向き合い健全に子育てしていけるように応援する取り組みを行っています。このことにより、虐待の予防、早期発見、子どもの成長・発達の促進、安心して子育て出来る環境の向上を図ることができます。

特に、虐待は低所得層から発生しやすいことが示唆されています。若年出産・年子出産等リスクの高い層に対して、低コストで質の良い保育を提供する必要があります。その為、土・日・祝日、昼夜問わず低価格で一時保育を受け入れるシステムを確立し、子育て支援の家「あいあい」を設立しました。

子育て支援の家「あいあい」では、新生児を含む0歳から14歳までの希望する子とその親が利用でき、平日は勿論、土・日・祝日や夜間いつでも24時間対応の一時保育事業を行っています。料金は平日は1時間500円、土・日・祝日・夜間は1時間600円で実施しており、二人目や要支援家庭に対しての割引制度も用意しています。1日8組の定員の中で、保育児数に応じて保育従事者数を配置し、休日・夜間の利用にも対応するため、事務所の固定電話から携帯電話へ転送することで、24時間対応を実現しています。

また、平日は、在宅主婦の家庭の子どもの発達促進のための事業として、4時間半の定期母子分離を行うミニ保育園を並行して実施しています。

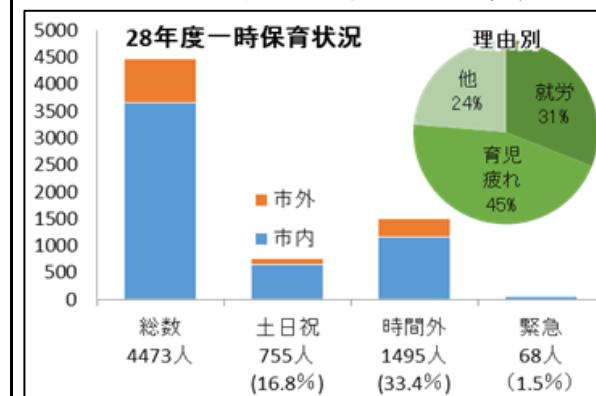
【成果】

平成28年度の利用者数は合計4473名で、その内755名が土・日・祝日の利用でした。午前9時前、午後17時以降の時間外の利用は1495名で、事前予約なしの当日の緊急一時保育の利用は68名でした。また、開所日は361日にのぼり、この取り組みの需要の高さがうかがえます。

この取り組みが、つどいのひろばや親支援の為の講座を利用する親とは、全く違う層の人たちとの出会いをもたらしてくれました。発達が気になる子ども達との出会い、家族の病気、シングル親、外国籍の親、虐待ハイリスクの親達と、こんなにも直結しているとは思ってもみないことでした。

緊急一時保育を低料金で実施することは、虐待ハイリスクの親達と確実に出会え、虐待の早期発見とともに虐待の予防だけでなく、困った時に必ず受け入れて貰えるという安心感となり、利用の有無にかかわらず親子を守ることができると考えています。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲平成28年度一時保育利用状況をみると、土日祝日や時間外の利用が多いことが分かる。



▲一時保育中の外遊びの様子。



▲参加親子とウイズアイスタッフ。地域密着で、利用者が支援者にまわるといった循環型の子育て支援が実現した。

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：名張市（三重県）

取組タイトル：名張版ネウボラの推進

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	<input type="checkbox"/> 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	<input type="checkbox"/> 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	<input type="checkbox"/> 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	<input type="checkbox"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	<input type="checkbox"/> 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL： <http://www.cit.nabari.lg.jp>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

少子高齢化、地域社会の互助機能の低下、虐待報告数増加がある中、母子保健はハイリスクアプローチのみでなく、妊娠期からポピュレーションアプローチの視点で、心身の疾病の早期発見や虐待防止に取り組む必要があります。

三重県名張市では、地域診断や、母子保健事業の妊娠届出時調査の結果を踏まえ、子育て家庭を中心とした切れ目ない支援体制の構築を進めています。

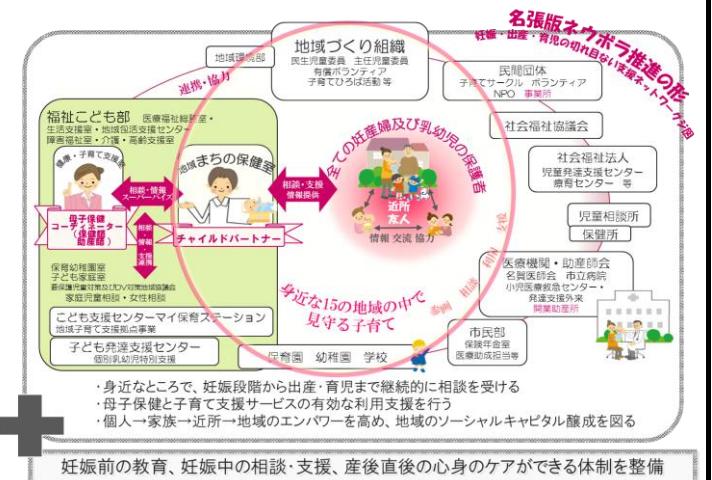
「名張版ネウボラ」は、平成26年4月より始まった、産み育てるにやさしいまち“なばり”をめざす妊娠・出産・育児の切れ目ない相談支援のための名張市独自のシステムです。潜在している支援を必要とする子育て家庭の発見と早期支援により虐待の発生防止に努め、すべての子育て家庭が身近な地域の中で健やかに育ち、シニア世代と共に社会に貢献できるような「健康なまちづくり」への好循環をめざすことを目的としています。母子保健の重要性の再認識と、部署・職種を超えた課題整理より、既存の制度や資源を再構築するとともに、必要な支援を産み出すために得た推進の形です。また、医療機関や地域住民も含めた多職種多機関による重層的セーフティーネットワークと妊娠期からの相談・支援各事業の総称でもあります。

具体的な取組は、まず「身近なところでの寄り添いのしくみ」です。小学校区15の地域づくり組織に身近な相談場所・人（チャイルドパートナー）を設置しました。市保健師のコーディネートにより、従来の母子保健事業やチャイルドパートナー相談、地域の保育園や地域づくり組織による子育て広場、また、ハイリスク支援マネジメントを連動させました。次に「産前産後ケアの体制」です。「子育てプランの提案」「生後2週間目全戸電話相談」「子育て支援員研修」など、14の新たな事業を、ニーズ調査を基に様々な主体と展開しています。個人・家族・近所・地域・提供者のエンパワーを高め、地域のソーシャルキャピタル醸成を図ります。

【成果】

チャイルドパートナーの個別面接数は年間約700件、産後ケア事業は計235回993組の利用があり、身近な相談場所とコーディネートによる利用者が増加しています。利用者からは「産後すぐに電話をもらい相談して、助産師の声を聞いたら涙が出るほど安心した」「聞いてもらうことで、何に悩んでいたのか、どうしたいか整理できた」「ひとりで子どもに向き合う時間は長いですが、一緒に子どもを見てくれるチャンスがたくさんある安心感は大きい」などの声が届いています。また、医療機関や助産師会とのネットワーク強化による社会的ハイリスク妊産婦の発見と要支援家庭の顕在化が可能になり、早期の相談支援体制がとれるようになりました。さらに、子育て支援員研修には、平成27年～29年の間で390名が参加し、支援員として活動している人も111名にのぼり、地域組織等関係機関の主体性の強化と参画が可能になりました。そして、「妊婦応援都市宣言」(平成29年12月)につながりました。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



チャイルドパートナー相談



おっぱいケア事業

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：生活協同組合コープみらい

取組タイトル：組織一丸となって取り組む 地域での子育て応援の取り組み

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	<input type="radio"/> 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	<input type="radio"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	<input type="radio"/> 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL： <http://mirai.coopnet.or.jp/cam/kosodate/>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

コープみらいは、千葉県、埼玉県、東京都が事業エリアの生協で、340万人を超える組合員による、組合員同士の助け合いや地域のコミュニティづくり、生協の主な事業分野である「食」を通じた産地や生産者と共同した「食育」の取り組み等を通じて、地域の重要な課題の一つである子育てへの応援を通じて豊かな地域づくりを目指して活動しています。

具体的な活動として、「みらいひろば」という託児付の定期的に消費者が集まる場を設け、食育等を通じた異世代間交流を実施しています。参加者の自発的なテーマ設定による、食品企業を呼んだ講習会、産地等への見学会など様々な取り組みを実施することで、子育て中の親の「私らしくいられる場」につながっています。この「みらいひろば」は、地域にお住まいの方なら誰でも参加していただける、地域に開かれた場として、多くの方に参加いただいています。

また、乳幼児期、病児を抱える等で家事などに手助けの必要な家庭への有償ボランティア制度等で、組合員同士の助け合いの活動(子育て応援)を実施しています。さらに自主的、定期的な子育てひろばを実施し、親と幼児の集まる場を提供することにより、参加する親同士の教え合いやコミュニティづくりへの支援、ひろばでの子育てにおける先輩であるコーディネーターによる援助等を実施しています。

その他にも、主に児童期を対象とした「お買い物体験」「料理教室」「環境企画(里山の教室、海辺の教室、川辺の教室、原っぱの教室など)」「たんぼ、はたけのがっこうシリーズ」等の見学や体験・学習や、農産物を中心とした産地へ親子で訪問し、栽培、収穫の体験や収穫物での料理教室、生産者との交流を実施したり、1回の体験ではなく、種まきから収穫、調理までの連続した体験も実施しています。また、食育サポーター等による食育に関する学校への出前講座も行っています。

【成果】

「みらいひろば」は、平成28年度3,286回開催し、参加者は延べ32,038人にのびります。子育て中の母親からは「家事育児で疲れた私が、久しぶりに一人の人間として話せる場で、本当に充実した時間でした」との声が届いています。自主で行う子育て広場は、同世代の母親同士で悩みを共有しあったり、情報共有の場として、平成28年度は60会場869回開催し、参加親子は延べ5,626組になりました。また、自治体から受託して運営している子育てひろばも、6行政10カ所あります。さらに、農作物の生産者との交流、栽培体験や料理教室、食育に関する学校への出前講座などは、平成28年度は447回で参加者延べ13,101人にのびり、今後は、組合員に限らず地域の消費者を対象とした子育て応援の取り組みに広げることで、地域への貢献を更に高めていきたいと考えています。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲参加者の会話が弾む「みらいひろば」



▲親子で賑わう「子育てひろば」



▲田植えから始まった「たんぼの学校」も収穫の段階に

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：ヤマトグループ健康保険組合

取組タイトル：めざせスモークレスファミリー～みんなで防ごう赤ちゃんの受動喫煙！～

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	○	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
		重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：http://www.ytckempo.or.jp/

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

受動喫煙の問題について、ヤマトグループ健康保険組合の加入者の家庭での喫煙状況を調べると、妻が喫煙者の家庭は、全年齢層で夫も喫煙者であることが多いことが分かり、家庭内での子どもの受動喫煙の深刻さを改めて認識しました。また、両親が喫煙するという環境の中で育つ子どもは、喫煙への抵抗感が薄れることにより将来的に本人の喫煙に繋がることも危惧されます。そこで、ヤマトグループ健康保険組合では、まず、「子どもの出生」をきっかけとして、「家族みんなで禁煙」に取り組む仕掛けづくりを行い、育児期間中の両親の喫煙率を下げることで子どもの家庭内での受動喫煙を防ぎ、健やかな成長を育む活動に取り組んでいます。

取組の内容としては、健康保険組合で保有している「出産育児一時金」の給付データを活用して、新たに子どもが生まれた家庭をピックアップし、対象者の自宅に①禁煙についての啓蒙リーフレット『めざせスモークレスファミリー』と、②赤ちゃんのケガ・病気への対応方法を記載した冊子『ママ・パパあんしんブック』を送付しています。また、年4回発行している広報誌「けんぽだより」に同封し、自宅に郵送することで、家族で目を通すことができ、「家族みんなで禁煙」に取り組むことへ繋がっています。

【成果】

これまでに2回、約1,000人の対象者に資料の送付を行ったところ、非介入群の社員の卒煙率に比べ、介入群の社員は卒煙率が高くなる結果となり、活動の成果がありました。

本取組の特徴は、健康保険組合で保有しているデータを分析・活用し、効果的な禁煙啓蒙から、具体的に「卒煙率の向上」の成果が出ている事例であることと、他の団体への普及しやすさという点からも、家族形成期の家庭への禁煙アプローチとして有効な事例であることです。育児期間中の両親の喫煙率を下げることで、子どもの健康な暮らしの支援を行うとともに、両親の喫煙という身近な喫煙環境を解消し、幼少期から将来の喫煙を防ぐ仕組みづくりを実行しており、これは、家族(加入者)の「健診データ」や「診療データ」の経年検証ができる保険者の強みです。

今後は、子どもの成長に合わせたワンストップの禁煙教育を行っていきます。例えば、乳幼児の期間は両親へ受動喫煙についての啓蒙、成長に伴って子ども本人へ未成年の喫煙についての啓蒙を行うなど、年齢に合わせた教育を行ったり、禁煙の成功率を上げるため地域の医療機関との連携を強化し、通知時に対象者の職場・自宅付近の禁煙外来の紹介などを行うことで、より効果のある取り組みを目指していきます。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲『けんぽだより』と一緒に禁煙啓蒙リーフレットを送付



▲喫煙状況を地域別・性別・年齢別や家庭単位などで分析

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：特定非営利活動法人 ままとーん

取組タイトル：赤ちゃんが学校にやってくる！～いのちと出会う・感じる授業～

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」		重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」		

プロジェクトウェブサイトURL： <http://mamatone.org/inochi>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

少子化が進む中、身近に乳児と接する機会が少なく、子ども達が子育ての具体的なイメージを描きにくくなっている一方、乳児を抱える親は地域とのつながりを得づらく、子育てに困難を感じる親も少なくない現状があります。また、中学高校の家庭科において保育の単元が設けられ、学校側から子育て当事者としての講師依頼が寄せられるようになったことから、ままとーんでは、地域の親と学校の子供達とをつなぐ出張授業の取組を開始しました。

プロジェクトの参加者は1歳半までの乳児とその親で、ゲストとして随時公募・登録を行っています。つくば市と近隣市町の小中学校には、毎年、教育局等を通じてプロジェクトの概要を告知し、依頼があった学校に赴いて出張授業を実施しています。授業当日は、会場の設営やゲストのサポート、授業の進行を行うスタッフが、ゲストと児童生徒との交流の場を運営します。プログラムの内容はゲストが出産や子育てについて語る「ゲストとのトークタイム」と、抱っこ体験などの「赤ちゃんとのふれあいタイム」というシンプルな構成で、小中学校、高等学校の様々な科目・単元において導入活用されています。なお、スタッフ自身も子育て当事者であり、自身の子が児童生徒の年代である者も多くおります。乳児期の子育ての話に共感しながら、児童生徒の興味関心に応じた話題を引き出すことができ、当事者による子育て支援を掲げる団体の特質を活かした取組となっています。

この取組を通して、地域の子育て当事者と、未来の次世代育成を担う学校の子供達とが交流する場を創出し、子育てという営みの貴重さを互いに感じ合う機会とすること、また、子育て経験を家庭内にとどめず、子育てがもたらす喜びや成長の機会を社会資源ととらえ、積極的に共有できる地域づくりにつなげることを実践しています。

【成果】

これまで延べ63校で授業を実施しており、3年以上継続の学校も5校あります。参加ゲストは延べ497組で、リピート参加も多く、ゲストからは「誕生や子育ての喜びを振り返ることができた」「地域とつながりをもてた」「今しかできない社会貢献ができて良かった」などの声が寄せられています。また、全ての訪問校で児童生徒対象の事前事後アンケートを実施し、教職員からも「実際に赤ちゃんに触れ合うことで、児童は命の大切さや、いかに大切に育てられてきたのかを実感できたと思います。すばらしい時間になりました。」との感想もいただいております。授業を通して子育てにより具体的でポジティブなイメージを抱くことができ、自身の成長や生命の大切さを感じる機会となっていることがうかがえます。

また、今年度は認定NPO法人水戸こどもの劇場との協働で、茨城県少子化対策課と教育庁によるモデル事業（世代をつなぐライフデザイン形成支援事業～高校生のライフデザインセミナー～）として県立高校4校で実施予定となっており、このモデル事業により、来年度以降さらに他地域での取り組み団体を増やし、プログラムの普及を目指していこうと考えています。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



「ゲストとのトークタイム」の様子。育児体験を語ることも。



「赤ちゃんとのふれあいタイム」の様子。足の裏のやわらかさに驚く子どもも。



↑スタッフも子育て中の母親が、その経験を生かして、ゲスト親子をサポートしています。

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称： 特定非営利活動法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会

取組タイトル： すべての子どもにホスピタル・プレイを届けるためのHPSの取り組み

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	<input type="radio"/> 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」 <input type="radio"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	<input type="radio"/> 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」 <input type="radio"/> 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	<input type="radio"/> 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
-------------------------	---	--	--

プロジェクトウェブサイトURL： <http://hps-japan.net/>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)は、遊び(ホスピタル・プレイ)を用いて小児医療チームの一員として働く、英国生まれの専門職です。医療環境をチャイルドフレンドリーなものにし、病気や障がいを持つ子どもたちが医療とのかかわりを肯定的に捉えられるよう支援します。ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会は、平成24年にHPS養成講座の修了生が設立し、ホスピタル・プレイの啓発と普及のために全国で活動をしています。

病気や障がいを持つ子どもたちは、自己肯定感を形成するための経験が損なわれるだけではなく、継続する医療的ケアのために、情緒的にダメージを受ける危険性もあります。子どもとしてのありようが最も顕著に表れる「遊び」も制限され、大人によって「遊べない子ども」と勝手に分類される可能性があるため、自己実現していく過程を作ることにも困難です。命を継続するための医療と、命を輝かせるための「遊び」を組み合わせ、子どもにやさしい医療を実現するためにHPSは努力します。

具体的な活動として、医療的ケアを必要とする子どもたちにホスピタル・プレイを届ける活動、またホスピタル・プレイを普及するための教育研究活動や、有資格者へのキャリアアップ活動も実施しています。

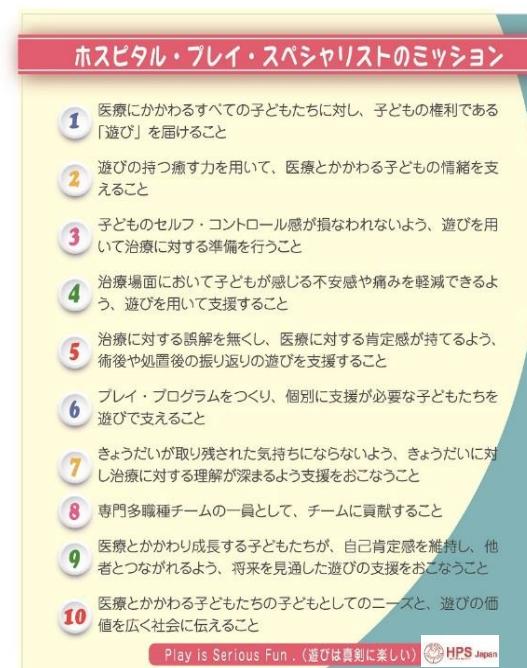
【成果】

静岡県立大学短期大学部と協働し、HPS養成事業に深くかかわっており、これまでにホスピタル・プレイ体験型ワークショップを全国8ヶ所16回開催し、子どもときょうだい、家族を対象にホスピタル・プレイに実際に触れてもらう活動を行ないました。平成28年度は北海道、静岡、愛知で計3回開催し、58家族121名の参加がありました。ワークショップが1日限りの体験で終わることのないよう、家庭でもできる遊びの提案も行っており、病気や障がいを持つ子どもときょうだいが共に楽しく遊び、家族は子どもの新たな一面を発見することができました。

さらに医療的ケアを受けながら在宅で生活する子どもたちへの在宅支援については、5年間で27名の病児、障がい児の自宅を訪れ、平成28年度は7名のHPSが3歳～15歳の12名の子どもへ127回訪問しました。HPSのかかわりにより「患児」から「子ども」に戻すこと、子どもとしての当り前の「生」を外に向けて発信すること、生まれてきてよかった、生んでよかったと思える親子の関係性づくりができました。

また、在宅支援時に看護師やPT(理学療法士)やOT(作業療法士)の見学受け入れや、HPSが子どものケアに同行しPTやOTにアドバイスをを行うなど多職種間の横のつながりもできました。在宅支援に関わるHPSに求められる知識や技術、態度に対する理解も深まり、今後はその成果を在宅医療に関わる専門職と共有し、チームとしての働きかけの向上を図っていきます。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



処置や検査の場面でも、遊びながら行なうと恐怖心が軽減し、落ち着いて受け取ることができます。この日は好きな絵本を読みながら採血をしています。

ホスピタル・プレイ体験型ワークショップでは、呼吸器をつけている子どもでも、工夫次第でたくさん遊び、自己表現が可能になることを体験を通して家族に伝えています。

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：社会福祉法人 和光会

取組タイトル：子育て複合施設CIRCUS

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	<input type="radio"/>	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	<input type="radio"/>	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：<http://www.wakoukai-net.com/nagomi/circus> <http://www.wakoukai-net.com/nagomi/ncafe>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

少子化が加速度的に進み保育園やこども園の果たす役割が増す一方で、待機児童等の問題からその機能の多くを就労家庭に限定している現状があります。その結果として保育園やこども園は0歳～2歳児を育てる未就労家庭やこれから親になる世代、子育てがひと段落した世代にとっては、訪れることへの主体的動機を見いだすことが難しいという課題があります。和光会では、これらを解消し保育園やこども園がすべての家庭を対象とし子育てを共有することで、より豊かな子育て風土を醸成できると考え、浜松市北区に子育て複合施設CIRCUSを創設しました。

子育て複合施設CIRCUSは、保育機能(小規模保育事業)、子育てひろば(市町村委託事業)、カフェ(収益事業)、玩具・絵本の販売(収益事業)が一体となっています。この特徴を活かして様々な世帯が訪れる動機や魅力を創出し、多面的に地域社会と子育てを共有する「プラットフォーム」のような存在を目指しています。

特にカフェは、現役の子育て家庭はもちろん、学生のようなこれから親となる世代や子育てが一段落した世代、女子会からママ会まで幅広い世代で利用され、飲食という一般性の高い機能は、より多くの人にとって本施設を身近なものにするきっかけとなっています。

また、毎月第3日曜日に「Nマルシェ」と題して、農家等の民間事業者と協力し朝市も実施し、さらなるコミュニティーの多様化にも取り組んでいます。

【成果】

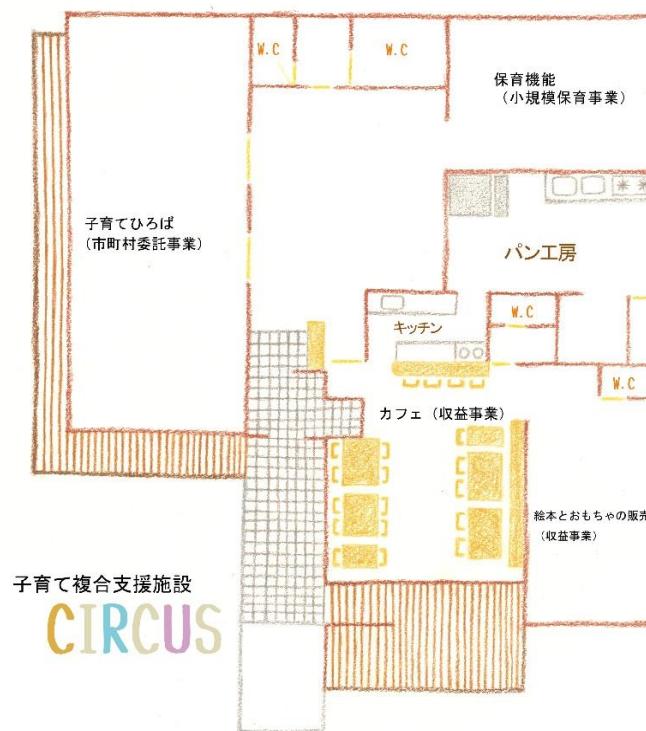
本施設が複合施設になる以前の平成25年度の子育てひろば事業の利用者数は、4,365人(328世帯)でしたが、平成26年12月に複合施設化した結果、平成27年度は利用者数21,059人(2,492世帯)、平成28年度は利用者数22,222人(2,785世帯)と地域の出生児数が減少する中でも飛躍的に利用者数を伸ばしています。

今後も、本事業の専門性や特性を活かし現役の子育て世帯はもちろん学生や未婚者などの潜在的な子育て世代や子育てをひと段落した世代、高齢者など多様な人々を巻き込み地域社会と出産や子育ての積極的なイメージを共有していきます。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲子育てひろばと併設するカフェ(Ncafe)のランチタイムは、いつも子育て家族を中心に賑わっています。



第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：特定非営利活動法人 女性と子育て支援グループ・pokkapoka

取組タイトル：妊婦・乳幼児世帯のひきこもり予防事業(Drop in Lunch)

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	<input type="radio"/>	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	<input type="radio"/>	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
		重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	<input type="radio"/>	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：なし

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

昨今の望まない妊娠・ひとり親の増加、子育て世帯の貧困率の増加、所在不明児童の存在などを背景に、妊娠して出産しても子育て広場などに出でこない、出てくることができないハイリスク世帯は増加しています。そのため、必要な支援や地域とつながることができず、ひきこもりがちになったり、虐待等へ発展している現状があります。

女性と子育て支援グループ・pokkapokaでは、ハイリスクと思われる妊娠中から子育て世代(主に乳幼児世帯)と食事を共にすることにより、地域や支援につなげていく活動「Drop in Lunch」を大阪市東淀川区で実施しています。

Drop in Lunchの対象者は、ハイリスク妊婦・親子(助産師の養育支援家庭訪問、東淀川区保健福祉センター保健師、東淀川区役所子育て支援室からの紹介等)で、招待状を手渡しあるいは自宅へのポスト投函によりアウトリーチでの招待をしています。そして、招待した方を対象に、昼食(弁当や調理)を共にしながら話したり、季節の手作り等を楽しみ過ごします。

自宅から出てくるのが難しい対象者には、迎えに行ったり、待ち合わせをするなどして参加を促すことも行っています。

特定非営利活動法人として活動をして13年目を迎え、妊娠期(助産院)から子育て期(おやこひろば・保育ルーム)の地域で暮らす立場で安心して子育てができるように、サポートする側とされる側が協力し合いながら活動しています。

【成果】

本事業は、平成26年度に東淀川区の「社会的問題解決に向けた区民提案型事業」としてスタートし、参加した対象者の定着等の成果がみられたため、その後も引き続き医療機関、母子生活支援施設、区役所などの連携を図りながら実施をしてきました。平成28年度は計12回実施し、参加者は128名となり、「ここに来ると一人ではなく、『みんなで育児をしている』ような気持ちになり気が楽になり、楽しいです」、「毎日イライラするようになってきたので、ここにきて嬉しい」との声が聞かれ、さらに、こちらからの情報提供により、実際に行政にSOSを出せた方や、地域の子育て広場に参加できるようになった方もいらっしゃいます。

今後は、現在参加している方たちへの次の場所を提供することを目指し、この取組の場で手作りしたものを法人内のバザーで販売するなどして、地域とのつながりづくりや社会参加ができるような仕組みを作っていきます。また、新しい対象者をさらに増やすと同時に、地域の民生委員等とつなぎ、自分の生活しているコミュニティでのつながりづくりにつなげていくことで、子育ての困難感を軽減したり、地域で子どもを育てていく意識を高めていこうと考えています。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲毎月お届けする招待状(スタッフの手作り)



▲お弁当の他に、みんなで調理する日もあります。子供用のカレーライスや離乳食も取り分けて。



▲12月の手作り作品

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称： 特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都

取組タイトル： 発達障害児のためのヘアカット「スマイルカット」

「健やか親子21(第2次)」 取組課題：	<input type="radio"/> 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	<input type="radio"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL： <http://www.sora-pro.jp/>

取組・事業の概要と特徴：

【目的・概要】

「髪を切る」そんな当たり前と感じられる行為が、中々思うようにできない人たちが世の中にはたくさん存在します。そらいろプロジェクト京都では、高齢者や障がい者、小さな子ども達、理美容院に行きにくい人たち、また理美容院がそのような人たちを受け入れにくい今の社会や業界を変えていくために、「スマイルカット」を実施しています。美容師が中心となり、美容の面からバリアフリー社会を作りたいと、高齢者や障がいを持った子ども達、みんなの笑顔ために活動しています。

スマイルカットは、理・美容院で椅子に座ってカットができない自閉症や多動症などの障がいをもつ子どもへのヘアカットです。例えば、ドライヤーやバリカンの音に反応してパニックを起こしたり、多動症のためじっと座っていることが苦手だったり、知らないお店に入ることに恐怖を感じる子どもいるため、障がい特性にあわせてカットの個別プログラムを段階を踏んで行っています。また、誤った偏見や周りからの目に遠慮して、保護者が子どもを気軽に理美容院へ連れていけないという現実もあります。そんな理美容室に行けない子ども達が、ゆくゆく理美容院で1人で座ってカット出来るように、1人1人の歩幅に合わせゆっくりと練習していきます。

まずは慣れた場所から開始し、絵カードやタイマー等を使用して不安感をなくして練習を重ねていき、最終的にはお店で座って切れる状態を目指していきます。また、保護者の不安な気持ちに寄り添い支援を行うことや、発達障がいを抱える子ども達やその保護者への理解と、カットするためのプロセスを全国へ広めるため、大学や美容専門学校での講義・シンポジウム・子育て支援講座・美容業界や福祉関係者向けの講演会を全国で実施しています。

【成果】

2010年に保護者からの相談により、スマイルカットを開始し、年々依頼は増加しており、京都・近畿にとどまらず、全国から問い合わせが増えていきます。現在総合支援学校、幼稚園、児童館、自宅、美容院などでスマイルカットを実施し、通算延べ約2,000名を超える子どもたちのカットに携わりました。また、「髪を切る」という目的だけではなく、スマイルカットから自信をつけ、他のことにも挑戦できる子が現れてきています。

今後も、全国にいる困りを抱える親子のため、当事者の家族への啓発はもちろん、美容師側へも啓発し、誰もが抵抗なく取り組める社会づくりを目指し、講演会研修会等様々な形の啓発活動を広く行っていきます。

取組・事業の概要がわかる写真や図：



▲子ども・保護者・美容師 みんな笑顔の「スマイルカット」

▼タブレットを見ながら、楽しく声かけ。環境作りをしています。



▲啓発のために絵本を出版。親子で育つ絵本。京都市小学校・幼稚園・児童館・図書館等へ寄贈しました。

第6回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：大阪市(大阪府)

取組タイトル：ヨドネル(子どもの睡眠習慣改善支援事業)

「健やか親子21(第2次)」 取組課題:	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○ 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○ 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL: <http://www.city.osaka.lg.jp/yodogawa/page/0000366430.html>

取組・事業の概要と特徴:

【目的・概要】

「子どもの睡眠が今、危ない」。淀川区が子どもの睡眠に着目し始めたのは、保護者からのこのような声がかきかけでした。

睡眠習慣については、これまでも小中学校ごとに啓発に向けた取組を行ってきましたが、こうした取組では、啓発に向けた科学的な根拠が不足しており保護者の意識を変えるところまでいかないという課題がありました。そこで、平成27年度より、区内小中学校長と区長との会議や、保護者・地域の方、有識者等と区長との会議等において、子どもの睡眠についての問題意識を共有し、対策について検討してきました。

平成28年度からは、区と小中学校の連携による「子どもの睡眠習慣改善支援事業(ヨドネル)」を本格的にスタートさせました。各学校において児童生徒・保護者への啓発を進めるとともに、区はその後方支援策として、抗疲労研究で名高い大阪市立大学と連携した大規模調査を展開しました。区内小中学生の睡眠実態にかかる詳細調査を実施しそのデータと分析結果を各校へフィードバックして各校の取組に役立てています。

また、同調査においてスマホ使用習慣と睡眠の相関が示されたことから、ICTを活用した啓発も展開し、LINE@から、職員創作のオリジナルキャラクターが、区の設定した「すいみんのオキテ」を守るよう画像で早寝を呼び掛けるユニークな取組も実施しています。

【成果】

子どもの睡眠習慣にかかる調査は、平成28年6月～7月の期間に、淀川区内の小中学校に通う小学校4年～中学校2年までの児童生徒を対象に実施し、5,285通の回答を得ました。その結果、睡眠時間が短いほど疲労がたまり、注意制御力が低下することや、SNS、夜間のコンビニを利用するほど睡眠時間が短いこと、家庭での過ごし方が睡眠にも影響することが判明しました。

こういったデータは、広く啓発材料として活用するとともに、各小中学校の取組にも生かされており、約10,000人も小中学生が暮らすまち・淀川区は、今後も子どもの成長の基礎となる睡眠習慣の改善に向けた取組を引き続き行い、「子育て世帯が住み続けたいと思うまち」を目指しています。

取組・事業の概要がわかる写真や図:



▲H28ヨドネル調査結果報告会にて解説する 水野敬氏(大阪市大)

ヨドネルオリジナルキャラクター▼



平成28年度ヨドネル6000人調査から得られたデータの例

